

「大震災からの復興を」

東日本大震災の被災地では、本格的な復興に向けた歩みが始まりつつあります。未曾有の国難を乗り越え、我が国を再生させるためには、国と地方が総力を結集して強力に取り組まねばなりません。

特に福島第一原子力発電所事故では放射性物質の放出停止、除染、損害賠償、さらには避難住民への支援などを国の責任の下、行なうべきです。国は「復興基本方針」に基づき各施策を展開することとしています。しかし、何よりも被災地へのきめ細かな支援と本格的な復旧、復興への取り組みを

はつきりした形で示し、絆で結ばれた地域社会の再生を強力に支援すべきです。

予算措置では平成23年度第三次補正予算を早期に、かつ着実に執行するとともに、平成24年度予算を一体的、連続的に編成し、地域の主体性を生かした復興対策を迅速に行なうなど。また、被災した医療施設、介護施設、福祉施設の再開のため、医療職、介護職の確保に十分な支援を行なうとともに、高齢者、障害者をはじめとする被災者、避難者の心のケアについても十分な支援を講ずるべきです。

市川三郷町としては、可能な限り、継続して被災地への支援を行なうこととしております。

町政では引き続き、町財政の健全化に向けての諸施策を計画に沿って着実に推進しております。一例として、歳入に占める借金返済の割合を示す、実質公債費比率（借金依存度）は合併直後の平成18年度が危険水域に近い18・3%でしたが平成22年度は12・9%と5・4%の大きな改善となりました。

財政が健全であるかを判断する指標は、4項目全てで改善されています。

善されておりますが、合併特例法の特例期間を終える平成28年度からは、地方交付税（交付金）が毎年減額して平成33年度には約10億円減額されることとなります。4年後に迫る更なる厳しい財政を見据えての町政となりますが、平成の大合併で合併を実現した市、町にとつて等しく大きな試験が迫っております。

平成24年1月1日
市川三郷町長
久保 眞一



中国歴代の名碑が復元された大門碑林公園では、中国で「四霊」や「四神」の一つとされた竜の石碑がいたる所で見ることができます。

辰年。

今年辰年。12支の5番目の干支である辰は、12支のなかでただ一つの空想上の動物です。一般には「竜」と書き「たつ」または「りゅう」と呼ばれています。

竜の伝説は世界各地に分布しており、いろいろな形で伝えられています。

す。また、竜の性格や役割も、悪役になったり神聖な動物として扱われたりと、地域によってさまざまです。英語やフランス語では「ドラゴン」と呼ばれ、ヨーロッパの神話では、暗黒の化身のように扱われ、英雄や神々に征伐される話が残っています。

中国では、竜は麒麟・鳳凰・亀とともに四霊と呼ばれています。竜は



「一步一步着実な前進を」

年頭にあたり、議会を代表し新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、3月11日の東日本大震災による未曾有の被害や、福島第一原発事故に伴う放射能汚染などの影響で今なお多くの皆様が自宅に戻れず、仮設住宅や他県に避難され不便な生活を強いられております。特に放射能汚染につきましては広範囲に影響し、健康への不安や農水産物など、食の安全をも揺るがす事態が続いています。それらの対策が思うように進まない状況の中、国内はもとより世

界中で原発に対する不安が広がっていますが、いずれにしても一刻も早い終息が望まれるところでもあります。また、世界的な不況により、ここ数年続いている景気低迷も一向に改善の兆しのないまま越年となり、文字通り内外ともに多事多難の明け暮れに終始いたしました。

9月には野田新内閣が発足し、4カ月が経過いたしました。年金と税の一体改革の議論がされている中、年金額の引き下げ、また支給開始年齢の引き上げや消費税の見直し、医療費の窓口負担の問題

など、我々の日常生活に直結する不安材料が山積していますが、しっかりと取り組んでほしいものであります。

一方、リニア中央新幹線のルート・駅の位置決定による付近の整備計画や、中部横断自動車道の工事着工に伴い、本町といたしましても、長い将来をしっかりと見据える中で、早急にまちづくりを進めて行かなければなりません。

国・県はもとより、本町も例外なく非常に厳しい財政状況ではありますが、限られた予算を皆様の英知を最大限活用させていただき、福祉や教

育・また生活に直結した関連事業の推進など、町の基本計画に基づき一步一步諸施策を進めて行かなければならないと考えております。

私も議会といたしまして、町民の皆様の生活の安定と福祉の向上を図るため、更に責任の重大さを痛感し、精進する覚悟であります。なにとぞ皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、より良い年になりますことをご祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

平成24年1月1日
市川三郷町議会議長
松野 清貴



いくつかの石碑は亀のような形をした台座に乗っています。この亀は竜の子どもで鼈負（ひき）と呼ばれる空想の動物だという説もあります。

淵にすむ神秘的な動物で、水や雨に関係するとされています。さらに竜は、天子のシンボルとされ、天子の顔を竜顔などと表現していました。

日本では竜は神聖視されていますが、古代神話にも竜が登場しています。また、竜は雲を呼び、雨を降らせる神として古くから信仰されており、日本各地に竜神・水神として残っています。

竜のつく言葉では、「竜頭蛇尾」「竜点晴」「登竜門」など、中国の故事に由来する言葉がよく知られています。「登竜門」とは、黄河上流の急流の溪谷・竜門をのぼりきった魚が竜に変わったという伝説から、成功への一歩となる難関という意味があります。

辰年にあやかっつて、今年は難関を突破し、飛躍の年にしたいですね。



■町民からの提案で 全ては始まった

「PRシールを作って不特定多数の人に町の名前を売り込んで？」町民からこんな提案が寄せられました。全てはここから始まったのです。この提案を元に、町では誰でも気軽に貼れるプリクラのようなシールを作成することに決定しました。

「町を元気にするような明るく楽しいデザインをどのように表現するか？」この課題に対し「これからの町を担う若い方に、柔軟な考えでデザインしてもらおう」というコンセプトを固め、県立市川高等学校にPRシールのデザイン作成を依頼しました。このとき自由な発想で「市川三郷」をイメージしてもらったため、あえて条件や要望は何もつけませんでした。

この依頼を受けた市川高校では美術部がデザインの作成に取り掛かり、そして誕生したのが、町のPRキャラクター「市川三郷レンジャー」でした。ひと目で町の特産品がわかるこのキャラクター

は、市川三郷をなんとかPRしようとする若い感性が感じられ、職員にも好評を得ることができました。

■PRキャラクター の活かし方

せっかく完成したこのPRキャラクターを一時の流行で終わらせないためには、上手に活用しなければなりません。そこでまず広報紙の表紙で華々しく登場させ「PRキャラクターが誕生した」とを報告しました。広報紙をめくらなくてもわかる表紙での発表は、賛否も含め町民には大きなインパクトを与えたようです。

次に、町民にこのキャラクターに少しでも親しみを持ってもらうためレンジャー3人、それぞれの名前を町民対象に募集をかけることとしました。これには400通もの応募があり、レンジャー産みの親、市川高校美術部が選考を担当し3人の名前は井上僚太郎くん・尚哉くん・菜穂子さんの親子が考えた「にんにん・どんどん・ぽんぽん」に決定しました。

■マスメディアの力

市川三郷レンジャーの認知度を高めたきっかけとして、マスコミの力は大きな後押しとなりました。当時、県内では自治体そのもののPRキャラクターはほとんどなく、またその生まれた経緯も高校生とコラボという独自のものだったため、マスコミの多くが興味を示しました。「にん



▲PRシールのデザインを作成する市川高校美術部員



▲市川三郷レンジャーの誕生を知らせる地元紙

▼大々的に行われた名前発表会（名づけ親の井上さん親子と）



誕生からおかげさまで満4年

市川三郷レンジャー これまでの活躍、これからの活動

市川高校美術部の手によって生み出された市川三郷レンジャーは、たくさんの人に愛され、また育てられてきました。誕生から4年を迎え、これまでの活躍を振り返り、これからの活動を展望します



市川三郷レンジャーが始めて紹介された「広報いちかわみさと」2008年1月号



▲地域支援ネットワーク六郷による町内保育所訪問。園児たちに大人気



▲PR用に製作されたレンジャーグッズ



▲全国ゆるキャラ®さみっとに参加



▲山梨県内のPRキャラとの競演も盛んに行われるようになった

■PR活動の新たな展開

にん・どんどん・ぽんぽん」の名前決定発表会も、新聞のカラー記事、テレビニュースなどでも大きく取り上げられ、町内のみならず県内全域に広く発信されました。

市川三郷レンジャーを使ったPR活動の大きな転機になった出来事があります。それは、町内自主グループ「地

域支援ネットワーク六郷」による着ぐるみの製作でした。

当初、町としてはキャラ独自の体型、予算の関係などから着ぐるみの製作は考えず、イラストを使ったPRグッズを中心に活動を行う予定でした。そんな中、地域支援ネットワークでは着ぐるみを作成し、自らが主催するお祭りですそれを登場させました。着ぐるみは頭部と胴体のバランスなどイラストとのギャップも

心配しましたが、そんな危惧は最初だけでした。キャラクタが立体となり、一人の生き物として活動することで親子連れが着ぐるみとの交流を求めてきました。さらにその着ぐるみを引きつれ、管内の保育所などを訪問して回りました。この地道な活動が、町内の子どもたちへの認知度を深めたことは間違いありません。

残念ながら、この着ぐるみによる活動はボランティアという時間の制約もあり、その後ストップしてしまいました。が、町から発信されたキャラクターを活用して、住民サイドがそれを地域おこしに利用するという形は、地域に市川三郷レンジャーが根付いてきた証でした。着ぐるみの有用性を身をもって感じた町では翌年度、合併体制整備費補助金を利用し140万円をかけて3体の着ぐるみを製作しました。

■着ぐるみを使用することの優位性

現在、着ぐるみを使用しての活動は主にイベントなどに出演し、会場で参加者と触れ合い、町のPRを行うことです。参加者は実際に市川三郷レンジャーと触れ合い、逢うたびに親しみが増しているようです。参加者らの笑顔や言動から、愛情に近い感情も生まれてきていることをヒシヒシと感じています。

また対外との接点を常に持つていられるという意味で、町にとって市川三郷レン

ジャーは「なくてはならない存在」に育ちました。

■さらなるPR活動展開へ

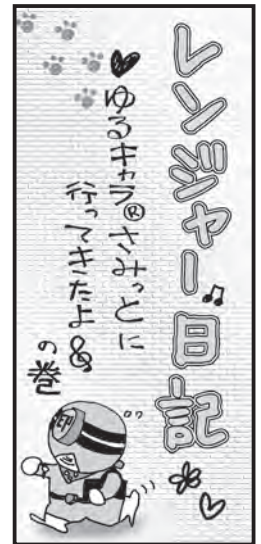
最近山梨県内のPRキャラと共に協力し合って活動を行える機会が増えてきました。また「全国ゆるキャラ®さみっと」への参加など、県外への露出も増えています。今後も着ぐるみでのPR活動はもちろん、まだまだ新たな展開を計画中です。

(株)サンリオのキャラクター「ハローキティ」とのコラボレーションタオル作成時、営業の方が教えてくれました。いまや押しも押されぬ人気キャラとなった「ハローキティ」も、人気にあぐらをかくことなく常に新たな展開を続けることで、人気を不動のものとしていったそうです。

市川三郷レンジャーでのPR活動を有効に活かすためには、キャラクターを一つの人格と捉え、またその人格を育てることが非常に大切です。

今後とも市川三郷レンジャーを、皆さんの手で育てていって下さいね。

■次ページでは「ぽんぽん」が全国ゆるキャラ®さみっとの様子をレポートしているよ。



最近、インド人ではないのか？と噂の「ぼんぼん」です



今回僕らは埼玉県羽生市で開催された「全国ゆるキャラさみつと」に参加してきました。全国のゆるキャラたちが一同に会する、ゆるキャラの祭典です。



さみつとは、ゆるキャラ®シッブに則り、フェアに開催されることが誓われます。この日も会場のそこかしこで軽々しく誓われていました。



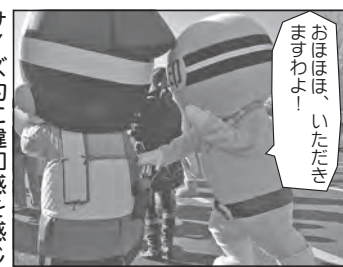
僕もその流れに乗り遅れまいと、秋田市の「ニャジロウ」さんと善戦を誓い合いました。



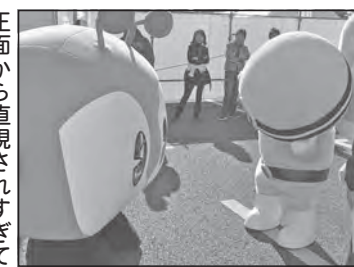
この「誓い」が引き金となったのか何なのか...この後、僕はファイバーしまります。まずは羽生市の長老「ザリガニ博士」も僕にかかれれば...このとおり！



約800年程前にお亡くなりになられているらしい矢の名手、大田原市からいらした「与一くん」だつて...。命の次に大事な矢をとられそうになっても気付かない。



サイズ的に違和感を感じてる都バスの「みんくる」さんも...



正面から直視されすぎて思わず後ずさり。因みに多分目は合ってます。



そんな僕でしたが、ついにあのお方に捕まっちゃいました！そう、岐阜県柳ヶ瀬商店街のやなぎさん。



唇を奪おうとする「やなぎさん。拒む僕ちゃん。でもついに...」



嫌よ嫌よも好きのうち。なんだかんだで、僕らお似合いのカップルじゃなくくない？



私は「やなぎ。人間とダンボールのハーブよ」

ちなみに！ほくらただ遊んでいただけではありませぬ。市川三郷町一日PR部長の任命もしてきました。ブースに来てくれたお客さんの首に、僕らのタオルをかけてかけてかけまくったのでした。この日、約400人の市川三郷町一日PR部長が羽生市に誕生したとか、しないとか...



つづきはブログで

「レンジャー日記」は市川三郷レンジャーの公式ブログです。楽しい情報満載！さあ君もアクセス！

レンジャー日記 市川三郷 検索

コメントもほしいぞ！

<http://ichikawamisatoranger.blog110.fc2.com/>

おめでとう
おくりやみ
11月
届出分
(敬称略)

※本人・ご家族の申し出があったものののみ掲載

誕生 元気に育つてね
氏名 届出人 地域

武井 美空 俊之 大塚
内田 眺翔 千章 大同

結婚 すばらしいご家庭を
両人の氏名

吉岡 祐樹 土屋 沙織
中塩 仁 小林 香世

死亡 お悔やみ申しあげます
氏名 届出人 地域

※地域名は亡くなった方の最終住所地です

望月 隆夫 上野
丹沢 文三 次男 上野
一ノ瀬 勇一 徳上 野
大原 すみ江 通男 上野
丹沢 次雄 公彦 上野
立川 玉子 淳大 塚
倉金 武文 武志 大塚
村松 いね子 良策 市川大門

シリーズ 男女共同参画

輝く笑顔
いしかわみさと

vol.38

女性の視点からの防災

3月11日の東日本大震災を受け、地域の災害対策や復興に、女性の視点が必要だと再認識されています。

震災発生後の情報を耳にするにつれ、避難所での環境整備や安全確保対策など、これまで声を上げにくかった問題について、女性の参画が必要だと感じました。

例えば、ふだん当たり前に行っている着替え・洗濯・育児・トイレなど避難所での生活は男性に比べ、女性に多くの制約があります。また、固

定的な役割分担意識から家庭的責任が女性に集中し負担が増大したり、避難所などで暴力被害にあう危険性が高くなるなど、女性を取り巻く問題がいくつも生じています。

こうした女性の肉体的・精神的負担を軽減するため、女性も防災対策の立案段階から参画し、避難所の運営責任者にも女性を配置するなどして、双方の意見を取り入れていくことが必要ではないでしょうか。そうすることで男女の二つの違いを把握することもできると思います。

また、弱者となるのは女性だけではなくありません。高齢者や子どもや障害者、外国人も



宮城県名取市の避難所の様子。一時は被災地全体で最大4万人以上が避難所での生活を余儀なくされたという



有事の際、女性ならではのきめ細かな対応が期待されている市川三郷町女性消防隊

また同様に多くの不安を抱えることとなります。先般の大震災では、地震直後の避難対応から復旧への過程で、地域コミュニティの重要さが注目されました。地域の住民が積極的に参画し、男女共同参画を含めた様々な視点を取り入れることで、いつ起こるかもしれない大災害の発生時に備えた準備をしていくこともまた重要です。

皆が共に支え合い、地域の防災力を高めようではありませんか。

市川三郷町男女共同参画推進委員

市瀬百合子

善意ありがとうございます

■望月義明様(岩間)から、父・故宏様のご遺志により小中学校の教育推進にお役立て下さいと、デジタルビデオなどの学校備品(計12品30万円相当)を六郷中、六郷小学校に寄贈して下さいました。

■青木昭子様(上野)より、福祉のためにお役立て下さいと、町社会福祉協議会に毛糸の帽子20個を寄贈して下さいました。

池川 重雄	きよ子	岩 間	芦澤キヨノ	和 仁	大 同	深澤 梅子	彌	大 同	石原志め子	孝 雄	山 保	立川 廣次	潔	市川大門	五十嵐きみゑ	哲 夫	市川大門	渡邊 なか	稔	市川大門	村松 正男	正文	市川大門
-------	-----	-----	-------	-----	-----	-------	---	-----	-------	-----	-----	-------	---	------	--------	-----	------	-------	---	------	-------	----	------